

勝山市総合行政審議会（第15期 第7回） 結果概要

開催日時 令和元年9月2日 19:00～
開催場所 教育会館3階 第1研修室
出席者等 出席委員10名
説明者 教育部
事務局 政策推進部未来創造課

【質疑応答】

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

1 健康のまち勝山の実現

212. 保健サービスの充実

委員

・乳幼児健診を通して育児放棄やDV、貧困などの家庭状況などが見えてくると思うが、受診されなかった人については、その後フォローはしているのか。

説明者

・受診者も未受診者も状況は把握している。平成30年度については、2名が未受診。生後9か月から10か月になると母親が仕事復帰の準備に入るため未受診となるケースがあるが、訪問して把握している。それ以外には、3月生まれの方で風邪を引いたりすると4月の健診を受診するため、年度内の受診とならず、受診率が下がる。

委員

・乳幼児健診は何歳まで受診するのか。

説明者

・法的には3歳児健診までだが、勝山市は独自で5歳健診まで実施している。受診率は90%以上となっている。

委員

・勝山のようにつながりの強いコミュニティ社会の中では、都会で悲惨なニュースになるような不幸な事例はないと思うが、乳幼児健診の受診率100%を目指して引き続き頑張ってもらいたい。大腸がん検診はどういう方が受診されるのか。受診者数が目標に対し少ないようだが。

説明者

・目標未達成の原因として、職場での受診が増えていること、胃がん検診が平成 28 年度以降 2 年に 1 回の受診になり、大腸がん検診もその影響を受け、2 年に 1 回の受診となっている方が多くなっている。今後 PR して、一人でも多くの方に受診してもらうようにする。

委員

・勝山市民全員に案内するのか。

説明者

・案内は受診希望者のみに送付している。また、国民健康保険加入者には全員に案内しているほか、市広報で毎月検診の日程を案内している。

委員

・市民の関心が低い。一般企業の方は受診していると思うが、それ以外の人にケアができるとよい。

委員

・福井県の目標値と、勝山市の目標値はどうなっているか。

説明者

・大腸がん検診は県全体で受診率 50%を目指している。勝山市の目標は受診率ではなく、受診者数となっている。その理由としては、元々の受診率が 20%台であり、すぐに 50%まで上げることは難しいことから、一人でも多くの方に受診してもらうことを目指し、受診者数を目標としている。

委員

・最終年度の受診率の見込みはどれくらいになるのか。

説明者

・26%の見込みである。

委員

・5 年かけて受診率 20%が 26%まで上昇する見込みとのことであるが、この上昇率が高いのか低いかわからないが、単年度の受診者数をもって評価するものではないのでは。令和 3 年度の目標を受診率 26%とするならば、啓発だけでは届かないのではないか。市民を誘導するような行動目標を設定するような形で取り組んではどうか。数字を設定して達成したかどうかより、どのように行動したかの方がより大事である。来年以降、可能であれば誘導するような施策を掲げていただきたい。禁煙に関しては、いまだに区民会館等でたばこを吸っている方が見受けられる。今後も受動喫煙防止をしっかりと取り組んでほしい。

説明者

・少しでも受診率が上がるように取り組んでいく。なお、今年度から市民の行動が変容するように、全国的にみて効果がある方法で、案内を送付している。今年度の経過を見ながら引き続き取り組んでいく。

委員

・がん検診を無料とすることはできるのか。

説明者

・平成 26 年度までは無料で実施していた。平成 27 年度からは個人負担金として 1 回あたり 500 円をいただいている。

3 福祉のまちづくりの実現

231 . 障がい者福祉の充実

委員

・施策指標となっている勝山市障害者生活支援センターへの相談者数について、減少している結果となっている。未達成の要因をみると、社協が窓口で受けてから障がい者生活支援センターに相談することになっているが、その時点で障がい者と判断するか、生活困窮者として判断するか、当然ながら現場が状況に応じて判断しているのだと思う。この障害者生活支援センターへの相談者数のみで現状のすべてが見えるわけではないと思うが、この数値をどのように判断してよいのか。

説明者

・ご指摘のとおり相談件数は減少している。大事なのは相談の中身である。どのような中身なのか、相談者の身になってしっかり繋いでいくことが大切であり、その相談体制づくりが大事である。障がい者生活支援センターは福祉健康センターすこやか内にあり、また、社会福祉協議会も同じ場所にあり、ここでも相談を受け付ける。さらに、健康長寿課、福祉・児童課も同じ福祉健康センターすこやか内にあるので、相談内容によってそれぞれの組織の担当にすぐ連絡できる連携体制がとれている。今後も連携して取り組んでいく。

委員

・勝山市障害者生活支援センターへの相談件数の減少は悪いことなのか。

説明者

・相談件数の減少で、よし悪しは判断できないと思われる。相談件数にとらわれず、しっかり相談できる体制を整えておく。

委員

・件数にとらわれるのではなく、相談者の内容に応じた重篤度などの指標を作ったうえで、大別しての

ランク分けするなどできないか。

説明者

- ・相談内容については、種類別には大別できるが、重篤度といった指標を作ることは難しい。

委員

- ・こういった対処をしたかが大事である。これがわかる指標があるとわかりやすい。

232．生活困窮者への支援

委員

・生活困窮に関して、働けない状況にある方は当然支援すべきであるが、働きたくても働けない精神が不安定な方について、出来ること出来ないことを把握したうえで、障がい者を事業者に紹介することはできないか。どの企業も人材不足といった状況の中で、少しでも働き手を確保するため、やり方によってはマッチングすることができるのではないか。

説明者

・働けるのに働かないといった方も相談を受ける。まず就労に関して本人の希望を聞くが、精神的に課題があるとマッチングしても続かないといった現状がある。就労支援のために、まずは簡単な軽作業を進め、慣れてから企業に進めるようにしている。また、どこまでできるか見極めるため就労事業所などを活用しているが、現実的には難しい状況にある。

委員

- ・企業側に対し、仕事の内容を変更するなどのアプローチはしているか。

説明者

- ・県と協力して、雇用契約を結ぶか結ばないかに分別して就労を支援している。

委員

・働き手が欲しい時代で、少しでも解消できればよいが難しいことだと思う。相談件数が増えないのは同じ人が相談を受けている現状もあるのではないか。

説明者

- ・確かに、1件当たりの時間が増えている。

委員

・件数よりも相談内容の問題である。解決できても1件なので、根気強い仕事にはなるが今後もしっかり取り組んでほしい。

説明者

- ・高齢者の働き手が増えており、勝山市の所得は全国平均より高い傾向にある。

委員

- ・燃料販売でお客さんのお宅を訪問していると、高齢者の一人暮らしが増えていると感じる。お正月でもお風呂に入れない高齢者がいたりするので、そういったときは、民生委員に連絡している。感覚として数字以上に、生活困窮者が増えていると感じているが、申告がなければ支援できないのか。

説明者

- ・我々から、支援を進めるようなことはできない。現状は民生委員頼りになっており、民生委員から連絡を受けたうえで相談に来るように伝えている。情報を把握したらしっかりと対応するようにしている。

説明者

- ・健康長寿課に地域包括支援センターがあり、高齢者に関する総合相談窓口がある。ここで高齢者に関する相談を一旦受け付けて、対応するようにしている。把握した情報があれば、地域包括支援センターに連絡してほしい。

委員

- ・認知症の方もいらっしゃるが、そういった方の対応はどうしたらよいか。

説明者

- ・同様に民生委員もしくは地域包括支援センターへ連絡してほしい。

4 結婚・出産・子育て支援日本一の実現

241 . 結婚支援策の充実

委員

- ・施策指標である結婚相談件数について、実績が累計値となっており増えているように見えるが、それに比べ、実際に婚姻成立した割合は2%程度となっている。さらに婚姻成立の実績を増やすには、相談件数を増やしそこから婚姻に結びつけるためのアプローチを増やしていくしか方法がないのではないかと。また、結婚のメリット等を伝えるなどの工夫も必要である。団体や企業の若い方と協力したイベントの開催も必要ではないか。結婚世話人の人数の増員も必要ではないか。勤めている人の中で、結婚を志望する方の気持ちを吸い上げる仕組みが必要である。

説明者

- ・結婚相談員は現在9名体制となっている。週に1回、午後と夜に分け、2人ずつの体制で相談窓口を設け、広報、ホームページで周知している。お昼は家族、夜は本人からの相談が多くなっている。すぐに紹介できるよう体制を整えているが、なかなかマッチングまでは至らない。結婚相談を通じて婚姻に

至ったケースもあるが、どちらかといえばイベントを通じて結婚したケースのほうが多い。ただし婚姻が成立した件数としては年間1件程度である。イベントの実施についてはフリーペーパーなどを利用して周知している。参加できる人数は限定されているが、参加される方お互いが見えるほうが婚姻に結び付く可能性が高い。

委員

・社員で独身者がいるが、結婚して家庭を持ち子育てしてもらえれば、落ち着いて仕事を続け辞めずに会社にいてもらえると思っている。企業としては、そのように安定した雇用に繋がるため、社員には結婚して子育てをしてもらえるようになってもらいたいと思っている。こういった考え方から、結婚支援については企業も協力してもらえと思う。

242. 出産支援体制の充実

委員

・にこにこ妊婦奨励金は、福井勝山総合病院妊娠に産婦人科があっても分娩できる体制とはなっていない現状を踏まえ、将来的な産婦人科体制の充実を図るために、妊婦健診について妊娠30週まで同病院で受けてもらうための支援制度だが、女性の立場からすると健診した病院と出産する病院が違うのは不安を感じると思うが、どのように対処しているのか。

説明者

・この制度は、妊娠届け出の際に全員に説明している。福井勝山総合病院の先生は、福井大学医学部から来られた先生であり、福井大学医学部附属病院で出産すれば、妊婦健診を受けた先生がそのまま主治医となる。福井大学医学部附属病院以外の病院で出産する場合は、福井勝山総合病院でピンクカルテを作ってもらっており、妊婦健診の状況が詳しくわかるようになっている。その他にも、出産を予定している病院で事前に1回健診を受けることができ、福井勝山総合病院と出産病院の連携を図れるように工夫している。

委員

・にこにこ妊婦奨励金制度の利用者数が減っている要因は、出産数そのものが減少しているためか。

説明者

・制度の利用人数は減少している。ただし、その利用率については、ここ数年は40%半ばを維持している。

5 安定した医療、保険制度の実現

251. 地域医療体制等の充実

委員

・施策指標となっている18歳から64歳でかかりつけ医を持つ人の割合が、平成30年度から極端に減少

している理由は。

説明者

・平成 30 年度の数字は、5 年に 1 回の住民意識調査の結果である。平成 28 年度及び平成 29 年度は住民意識調査を行っていないため、特定健診を受診した方を対象としたアンケートの結果であり、健康に対する意識の高い人がアンケート対象となっていることから、実績値について年度間の大きな差が生じてしまっている。

委員

・抽出している手法が違うのでは評価できない。かかりつけ医は厚生労働省も推奨しており、これに対する対応策を行っていると思う。国や市がかかりつけ医を推奨する理由と、住民にとってのメリットは異なるが、自分の健康を維持するためにかかりつけ医が大事であることは積極的に啓蒙すべき。また、この数値目標は評価しにくいので、こういった取り組みをしたかで評価すべき。医師会との連携は重要なので、しっかりと連携して進めてほしい。

第 5 章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

1 望ましい教育の実現

512 . 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実

委員

・施策指標となっている授業のわかりやすさ指標について未達成となっているが、実績の数字は高いと思う。アンケートをとる時期次第で指標の結果が変わると思われる。また、虐待児童や外国人児童へはどのような対策をとっているのか。

説明者

・施策指標の数値は、毎年秋に実施している各小中学校の学校評価の結果である。1 を超えると達成度は高いと受け止めている。児童虐待については、学校教育課、福祉・児童課、児童相談所、警察署で会議を重ねて連携を高めている。外国人児童への対応だが、現在フィリピンの子が 1 名、中国の子が 2 名いるが、市独自で個別支援している。

委員

・学校によって学力の差は出ているか。また、荒れている学校などはあるか。

説明者

・学力の学校間格差はない状況であるが、年によって多少の差は出てくる。昔は学校が荒れるといった状況もあったが、今はそういう状況は大変少ない。確かに学校が荒れると学力は下がる傾向にあった。現在は、小学校での学級崩壊的な状況を少し耳にすることがあるが、担任がダウンしてしまうような状況はない。

委員

・勝山市のESDの取り組みは県内でもトップクラスであるが、ESDのほかSDGsといった考え方も出てきている中で、どのように取り組んでいるのか。外国語教育は今の段階でどのように取り組んでいるのか。教職員の働き方改革はどういう検討をしているのか。

説明者

・ESDを学校教育に浸透させるために、先生方の意識を変える必要がある。学校訪問において、指導の一番トップにSDGsの一項目を入れるよう要請している。外国語教育は、平成26年度から文科省の英語教育強化地域拠点事業を4年間受け、研究開発校として取り組んだ。その中で、小学校の先生が英語の指導案等を勉強した。それが中学校や高校につながる狙いもあったが、成績としてははっきりとは表れていない。ただし、小学校の英語教育は学級の中の人間関係に良い影響を与えているとの報告がある。教職員の働き方改革については、管理職の責任が問われるようになり、管理職の先生はつらいと感じている。特に中学校では、事務を均等に割り当て業務量の個人差がでないように対応している。

委員

・勝山市の指導主事の取り組みはかなり丁寧だと感じるのでこのまま進めていってほしい。

委員

・スクールソーシャルワーカーをどのように活用しているのか。また、その雇用形態はどのようになっているのか。いじめ、不登校、教員の過重労働にも関係してくる役どころである。

説明者

・スクールソーシャルワーカーは1名を配置している。週2日程度勤務している。学校と家庭、福祉をつなぐ関わり方をしてもらっており、現在は小学生の児童がいる経済力のない家庭について福祉部門と協力して対応している。

委員

・スクールソーシャルワーカーの増員の見通しはあるか。

説明者

・もっと多く配置できることに越したことはないが、県の補助を受けて1名だけの雇用となっている。増員となると新たな経費も必要となることから、これ以上は難しい。

513. 「生きる力」を育む市民活動の展開

委員

・児童・生徒の地域行事への参加についても、小中学生は地域への行事に積極的に参加していると感じているが、他の市町と比較してどのような状況か。

説明者

・地域行事への参加については、小学校6年生、中学校3年生を対象として実施している全国学力学習調査の生活アンケートの結果である。勝山市は、小中学校ともに地域への参加率が全国平均の2倍程度と非常に高い。

委員

・小学校の子どもの見守り活動に関しては、学校または地域のどちらが主導か。

説明者

・子どもの見守り活動は、公民館を中心に行っているようになっているが、実情は学校の教頭が中心となっている。見守り活動の協力者については、子どもの祖父母が中心になっている。

委員

・地域によっては子どもの祖父母が参加しておらず、学校の先生に負担がかかっているところもある。子どもの見守り活動は、どこに所属しているかはっきりとわからず、不安定な組織となっている。協力者を募集しても集まらず、当然孫がいない家庭からは参加することがないことから、子どもの見守り活動が空白になる地区もある。見守り隊をどのように維持するか工夫したほうが良い。

3 いきいきと学ぶ生涯学習の推進

531 . 学習機会と施設の充実

委員

・私自身公民館で勤務していた時から、公民館学級への参加者数の増加は課題であった。その中で、いろいろな講座を実施し、花づくり、野菜づくりといった講座が人気であった。参加者を増やすために公民館から地域に出向く講座をしてはどうか。また、福祉バスを活用して、他の地域を見学する学級などの開催は良いのではないかと思う。学級から地域に根差したサークル活動に発展する事例はあるか。

説明者

・近年は、ジオパーク関係で地元のジオパークを見つける講座に取り組んでいる。福祉バスを活用し他地域を見学する学級も実施している。しかしながら、学級から地域に根差した活動になるケースは少ない。最近では、スポーツ吹き矢などのニュースポーツに取り組むといった新しい内容の講座も開催されている。

委員

・さわやか大学は良い講座をたくさんしていると思うので、このまま進めていってほしい。

委員

・施策指標となっている生涯学習人材バンクの利用件数は減少しているものの、人材バンクの登録者数は若干増加している。この制度をもっと普及させるために、積極的な広報に努めていただければと思う。

説明者

・人材バンクの利用件数の伸び悩みは大きな課題と認識している。周知の方法を工夫したい。

534. 図書館機能の充実

委員

・図書館の利用者数が減少しているが、他市では図書館にカフェを併設するなど、利用者数を増やす取り組みをしているところもある。イベントを実施するなどして利用者数を増やしてはどうか。

委員

・図書館の利用についてはもっと広報をするべきだと思う。

5 いきいきと輝くスポーツの振興

551. 競技スポーツと生涯スポーツの推進

委員

・来年はオリンピックもあって色々な行事が前倒しとなるが、勝山恐竜クロカンマラソンの参加者数を増やすために、おもてなしを充実させると魅力が上がるのではないかと。自虐的にはなるが、コースがきついといった意見もあるので、それを逆にアピールしてはどうか。

説明者

・今年の勝山恐竜クロカンマラソンは、園内にクマが頻繁に出没したため、残念だが中止とさせていただいた。今年は過去2番目に多い2000人を超える申し込みがあった。来年はオリンピックでいろいろな行事が前倒しされると考えられるが、いただいた意見を参考にアピールしていく。

政策の中項目あるいは小項目ごとの評価については、会議において委員よりすべて妥当であると認められており、それに関する会議中の発言内容については、本結果概要からは一括して省略する。